

スウェーデンとウプサラ

スウェーデンの文化・ウプサラの街並み

私達が3週間滞在したウプサラ市は綺麗な建物と豊かな自然が共生しあっている街で、散歩をすれば野兔を見かけるのも珍しくないほどの環境でした。歴史を感じさせる建造物も多く、街のシンボルとも言えるウプサラ大聖堂やウプサラ城には、多くの学生が感動していました。

首都のストックホルムからも電車で40分程の距離なので、休日はストックホルムに遊びに行く機会もあり、様々な建築様式の建物が並ぶ街の様子を写真に取めたり、お洒落な内装のカフェで思い思いの時間を満喫することができました。また、国会議事堂を訪問する機会もあり、スウェーデンに住む人々が政治に強い関心を持っている様子を体感し、私たちも政治に関心を持ち「未来をどうしたいか？」という気持ちを大事にして行動しなくてはいけない、と改めて感じました。

なお、スウェーデンはキャッシュレスがかなり浸透している国でもある為、現金で取引することはあまりないので、これから行く学生は、訪れる前に必ずクレジットの残高を確認することをおすすめします。



優しさに溢れたウプサラの人々



Lena さん

ほとんどの学生が、海外に行くこと自体初めてなので、「楽しみではあるけれど大丈夫だろうか?」といった不安や、「前に出て発言するのが難しい」と緊張している私達に対して、いつも優しく接してくれた Lena さんには、大変お世話になりました。

Lena さんのおかげで素晴らしいお店や景色を見ることができて、何よりもウプサラという場所の美しさや街の温かさを感じ取ることができました。



Ase さん

また、市民大学の Åse(オーセ)さん、授業の途中で始まる FIKA のお菓子を、いつも私達の為に買ってくださり、私達のそばで支えてくださいました。お別れする時は皆、別れを惜しんでいました。

ビジネス研修の様子

スカブスタ空港 最初のビジネス研修先として、スカブスタ空港を訪れました。ここでは、LCCを主に扱う民営化空港の経営を学びました。事前に長野県の松本空港を訪れていたため、スカブスタ空港と比較することで、日本の空港に必要な要素や、今後の成長のためには何が必要なのか、について考えさせられました。ここでは隣接するホテルで、スウェーデンで初めての宿泊をしました。

豊田自動織機 豊田自動織機は、主にフォークリフトを生産しています。私たちが訪れたミョルビー工場は、かつてスウェーデンの企業が経営していましたが、後に豊田自動織機によって買収されました。ここでは、その過程でトヨタ生産方式が普及した経緯や、海外と日本の経営スタイルの違いを学びました。

SKB SKB社では、核廃棄物と、消費された核燃料を地下で管理する、世界最先端の技術を学びました。地元の人々と合意形成するために、何年も継続したコミュニケーションを行い、次世代に対する「核」についての教育は、日本と比べて遥かに進んでいて、日本が今後「核」に対してどのような姿勢をとるべきなのかを考える、大変貴重な機会となりました。

英語の授業

授業内容

スウェーデンでの英語の授業での2つのクラスに分けられていて、どちらのクラスでも同じレベルのビジネス英語を学びました。様々なアクティビティを通して、ビジネスの現場で使う英語を、楽しく実践的に学ぶことができました。また、授業内では、英語の発音を繰り返し練習しました。始めは「L」と「R」などをうまく発音することができませんでしたが、発音練習のフレーズを繰り返し唱えることで、若干ではありますが、発音を改善することができました。とても濃い内容の授業で、毎回の授業がとても楽しく、1日が終わることがあっという間に感じた日々でした。

FIKA

毎回の授業には、必ずFIKAタイムが設けられていました。お世話になった学校の職員の方が用意してくださるFIKA用のお菓子は毎日異なり、FIKAの時間が毎回楽しみでした。

私たちは、現地の学生にもFIKAタイムが存在していると勝手に思っていたのですが、実際は存在していませんでした。そのため、彼らは私たちのFIKAを珍しそうに、何度か覗きに来ていました。

現地の学生や職員と話しながら過ごすFIKAは、とても楽しく、良い思い出となりました。

私たちは、長野県立大学にもFIKAタイムを取り入れた方が、学生の学習意欲が向上する、と担当の先生に訴えましたが、速やかに却下されました。是非、長野県立大学にもFIKAの文化を取り入れて欲しいです！



Sweden

Uppsala city

私達アップサラ組は、美しい自然や建物に囲まれているアップサラ市で 3 週間皆元気に過ごす事ができました。ここではそんな楽しい生活の一部を紹介します！

1. 自転車で市内を散策

皆でお揃いの自転車をレンタルして、通学も観光も一緒にサイクリングしました。スウェーデンではヘルメット着用、右側通行など日本とは違った交通ルールの中で不慣れながらも満喫したサイクリングライフでした。



2. 白夜での生活

北欧ならではの体験！夜の 11 時まで日が昇っているので、最初は時差ボケに苦しむ人が続出。放課後のちょっとした夕暮れが大きく引き伸ばされたような外の中で、サッカーをしたり、先生達と歓談する光景が印象に残っています。

3. アップサラ大聖堂

道に迷ったらとにかく大聖堂を探すんだ！！というくらい大きく目立ち、街の中心にあるシンボルのような存在です。北欧最大級の教会で、完成には一世紀以上もの年月が費やされたそうです。そんな歴史ある大聖堂の中は厳粛かつ幻想的で皆が魅了されていました。

毎年、6 月下旬の夏至に最も近い土曜日に行われる夏至祭。メイポールと呼ばれる大きなポールを囲み、大人も子供もみんなで輪になってダンスを踊りました。スウェーデンの人達にとって夏至は大事な季節の一つ。スウェーデンに行った方は是非楽しんでみて下さい。

Nature



整然と並ぶ建物の中に溶け込むように森林が整備されており、また川辺では、近くの街の人たちが泳いでいたりしました。



Food

日本よりも消費税が高いスウェーデンでは物価の高さに驚く毎日でした。IKEAのミートボールはリーズナブルで美味しく、学生の味方でした。



Friendship



日本語学校の高校生の学生とも交流しました！オリエンテーションやゲームを通して仲良くなり、ホットドックを食べながら談笑しました！日本の文化を英語で伝える難しさも、あらためて実感しました。

あたたかい国 フィリピン



Filipino

フィリピンと聞いて、何を思い浮かべるだろうか。バナナ？マンゴー？

暖かい気候のフィリピンは、おいしい果物がたくさん実り、街の屋台には多種類の果実が並ぶ。では、フィリピンで気温よりあたたかいものはなにか。それは、フィリピーノ。そう、フィリピンの人々である。海外の人が日本を観光しているのを見て話しかける日本人はそういないと思うが、私たちがフィリピンの街を歩いていると、すれ違う人のほとんどが「どこから来たの？」「今日はどこに行くの？」と、私たちに声をかけてくれた。また、店で買い物をしていると、陽気な男性店員が「どこから来たの？僕のメールアドレスを渡すから、メッセージのやり取りをしよう！」と言ってきてメル友になることもあった。さらに、スラム街を訪れた時には、異国から来た私たちを警戒しつつも挨拶をしに来てくれて、そこに住む子どもたちの中には、私たちにいきなりハグをしてきてくれた女の子もいた。また、現代の日本の子どもの遊びといったら家にもってゲームし、放課後に外で元気よく遊ぶ子どもをほとんど見る機会が少ないが、フィリピンの子どもは全員外で元気よく、自分たちで考えた遊びをして楽しんでいた。そして、私たちがビジネスビジットでEPSONのEPPIを訪ねた時、フィリピンの人々は「仕事で家族を養うことも大切だけど、何よりも家族との時間を犠牲にしてまで仕事はしない。日本では過労死ということがないと聞いたよ。それは僕たちには絶対に考えられないことだね」と言っていた。

私は、日本は先進国で不自由なく暮らすことができて幸せな国だと思っていたが、フィリピンの人々と触れ合ううちに、発展途上国での暮らしに不自由はあるものの、子どもは元気よく外で遊び、人がフレンドリーで温かく、家族を何よりも大切にしているフィリピンの人々の方が、日本人よりもずっと幸せなのではないかと感じた。

英語の授業

フィリピンの英語のプログラムは、どこの国のプログラムより圧倒的に過密だった。月曜から土曜まで9時から15時のハードスケジュールで、課題もたくさん出たので日付が変わるまで毎日勉強をした。正直、途中で逃げ出したいもなったが、今振り返ると、このハードな英語学習プログラムのおかげで、3週間という短い語学留学でも、帰国してから英語が上達した、と感じる場面が多々ある。指導して下さったフィリピーノの先生はとてもパワフルで、英語のスキルアップのサポートはもちろん、日本人の私たちに足りない、積極性も伝授してくれた。私たちに課される課題は膨大で、それをチェックする先生も同様にとても労力を使うと思うが、私たちの課題やプレゼンテーションを全て、隅々まで丁寧にチェックしてくれたので、私たちのモチベーションも上がった。現地の学生と共に授業を受けることができないのであれば、日常的にネイティブの先生の授業を受けることができる、長野県立大学での学習と何も変わらないのではないかと、思っていたが、明らかに違うものを得ることができた。本当に充実した授業だった。



ビジネスビジット

ビジネスビジットとして、私たちは3か所を訪問した。はじめに訪れた EPPI(Epson Precision Philippines, Inc.)では、日本企業である EPSON が、いかにしてフィリピンで工場をマネジメントしているのかを学んだ。実際にプリンター製品を組み立てるラインを見学し、どんな仕事内容なのかを学んだ。また、数グループに分かれ、現地で働く日本人役員の方々と話す機会も設けていただいた。グローバル社会で実際に働いている方々から助言をいただいたのは、貴重な経験であった。次に訪れた ADB(Asian Development Bank:アジア開発銀行)では、ADBの目的やその活動の概要、またフィリピンの経済についてのレクチャーを受けた。人種や出身国が様々な人々が対話し、ともに仕事をしている光景が印象的で、建物の中がまるで小さな世界のように感じた。最後に訪れた JICA (Japan International Cooperation Agency)では、フィリピン国内のインフラ整備や持続的経済発展を実現するための取り組みなどを詳しく知ることができた。ここにはフィリピンの大学生がインターンで働いていたのだが、自分と同世代の人間が JICA で経験を積んでいるということに、とても良い刺激を受けた。

どのビジット先でも、普段なかなか聴くことのできないお話を聴けたり、入ることのできない場所に入ったりと、大変貴重な体験をさせていただいた。それによって、記事で調べただけではわからないフィリピンがもつ実態や、抱える課題、その解決の為に動く人々の取り組みなどを垣間見ることができた。特に、実際にその場で働く人たちとの対話の機会を設けていただいたことには、とても感謝している。この経験は必ず、これからグローバル社会で生きる学生たちにとって、糧となるだろう。



フィールドワーク

授業の無い日曜日の2日間を使って、タガイタイやサンチャゴ要塞などの観光地に行った。まず、1日目にはサンチャゴ要塞、マニラ大聖堂、カーサマニラ博物館、サンオーガスチン教会を訪れた。サンチャゴ要塞は、第2次世界大戦中の日本軍の重要な拠点である。そのため、建物の焼け跡やそこから構造から、米国軍との死闘や独立運動の歴史について知ることが出来た。衝撃的だったことは、日本軍はその牢屋で多くのフィリピン人を水死させたという歴史的な事実があったことだった。次に行ったマニラ大聖堂は、フィリピン人の心の拠り所と言われるほど、重要なカトリックの教会である。教会の中は、とても広く、大きなパイプオルガンや美しいステンドグラス、等身大の聖マリア像があった。教会を訪れた時がミサの始まる前だったこともあり、今までに感じたことのない空気感を味わえた。さらに世界遺産であるカーサマニラ博物館にも行き、スペインの植民地時代の貴族館としての歴史を肌で感じる事ができた。その後、近くにあるサンオーガスチン教会を訪れた際には、偶然にも結婚式が行われており、歴史や文化に触れる、とても刺激的で感動的な1日となった。

2日目の日曜日には、タガイタイのピープルズ・パーク・イン・ザ・スカイとフルーツスタンドに行った。ピープルズ・パーク・イン・ザ・スカイはフィリピンの歴史的な都市公園で、そこから見える景色が綺麗なことで有名である。高台にあり、とても空気が綺麗であった。その後、フルーツスタンドで現地のパイナップルやバナナをいただいた。今まで食べた南国フルーツの中で、とても美味しく、大満足であった。

フィールドワークから学んだ日本との歴史的背景を考えると、研修中に感じたフィリピンの人の温かさを「フィリピンの人は親切であるという」認識で終わらせてはいけないように思う。私たち日本人は、日本の立場だけでなく様々な角度から、フィリピンの歴史や文化について理解することで、フィリピンに対して歩み寄るような行動をとる必要があると感じた。フィリピンの文化的、歴史的な観点から、その価値観についても考えさせられる海外研修であった。



肌で感じる社会問題もたくさんあった

これからの将来につながる経験

All Things...



Student

アテネオ大学の学生は、暑い中、薬局の案内や、換金の手伝いをしてくれるなど、とても親切。中には、フランス語で工学を学ぶ学生もいて、学習に対する積極性を感じた。大学の寮の人達も、授業や体調の心配をしてくれる。さらに、フィリピンの伝統的な食べ物をお土産として買ってきて渡してくれる、とても温かい人たち。



After School



tapioca

学生のお助けアイテム、タピオカドリンク。暑さで食欲が無いときはこれで、一食にチェンジ。日本にはない店もあった。学生の中で必ず1回は行っているはず。コンビニと同じくらいの頻度で出現する。

Pilipino



shopping

17時に授業が終わったら、近くのスーパーで買い物。15時に終わる日は、遠くの大きいショッピングモールで、ショッピングやカフェなどで一息。物価が安いので、お土産を買うには最適。日本のレストランやラーメン屋さんなどもあった。

Day off

授業がない日は、フィールドトリップ。

ピーブルズ・パーク・イン・ザ・スカイやマニラ大聖堂、フルーツスタンド、サンチャゴ要塞、リサール公園、サン・アグスチン教会など、多くの場所に訪れた。

また、観光地だけでなく大きなショッピングモールにも足を運んだ。ショッピングモールは想像以上に大きく、日本でいうアウトレットモールに近いかもしれない。長野市よりも断然マニラの方が都会であるように思う。

授業の終わった後には、アテネオ大学の学生との交流や買い物、外食へ行く。現地の学生には、校舎や大学の周りのお店を案内してもらい、また一緒にレクリエーションも行った。その間、たくさん話が出来た。学生の中には、親が日本人で、大学でも日本語を習っている学生もいたので、すぐに仲良くなる事が出来た。自由時間は少なかったが、大変内容の濃い時間を過ごすことが出来た。

About the Ateneo Program

授業時間が1番多いアテネオプログラム

英語だけじゃない、経営、経済、文化、観光・・・

体調の変化さえも学ぶ、とても貴重な時間



EPPI

ビジネスビジットは、フィリピンの EPSON、ADB、JICA に訪れた。その企業や組織の活動内容を理解することだけでなく、そこで出していたいただいた料理などでも、食文化や慣習に触れることができた。特に EPSON の現地法人である EPPI では、フィリピン人の女性の従業員の方に、直接お話をすることが出来た。彼女達に案内してもらいながら、工場内を見学したのだが、EPPI で働く理由や一番大切にしているものについて、教えてもらった。



Business Visit

ADB



フィリピンでは、日本人以上に家族を大切にしていることや、女性が働くことに対して積極的であるそう。また、EPPI で働く日本人の方の話の聞く中で、やりがいや大変だったこと、家族の話などから、海外で働くことに対して刺激を受けた学生も多かった。

Our School Life

基本的に、授業は 8 時から 17 時まで。15 時で終わる日もある。内容はビジネス英語であるため、これから使っていけるようなことが詰まっていた。日を重ねるごとに、濃くなっていく。クラスは 2 つに分けて行うため、先生との距離も近く、全員参加型。時間までみっちり、且つ宿題もしっかりと出る。

Presentation

3週間のプログラムには、アテネオ大学の授業としてのグループプレゼンが2つ、引率の先生による授業の中でのグループプレゼンが2つ、最後に個人プレゼンが1つ、全体で5つのプレゼンを行うことが求められた。

アテネオ大学の授業内のプレゼンは経済問題を扱い、それについて現状・原因・解決策を考えるというものである。アテネオ大学の授業でのプレゼンは、これまでとは違い、アウトラインをしっかりと構成させることに重点が置かれた。私のグループでは、日本の年金問題についてプレゼンを行ったのだが、Power Point をつくるところまでに多くの時間をかけた。経済問題を英語で説明する難しさに加えて、フィリピンの制度や文化が全く違うため、先生に理解してもらい難しさもあった。難しかったのはそれだけではない。Power Point の作成における構成について、明確性・影響力・正確性・長さ・イラスト・写真について考えなければならない。そこから、17 時に授業が終わって、19 時には完璧な状態で先生に提出しなければならない。当日には、あらかじめ考えてあったスクリプトを覚え、手ぶり身振りを加えながら発表する。過酷なスケジュールであったが、フィリピンの大学生と日本の大学生の差を肌で感じた瞬間であった。



イギリスとレスター

イギリスの文化・伝統に触れる

3週間滞在したレスターは移民の街で、街を歩けば様々な人種の人々とすれ違うことができたのは勿論、

通りには世界各地のレストランが並んでいた。アジア系、白人、黒人など関係なく様々な人たちが暮らす街であった。イギリスという国は世界から見ても歴史と伝統が深く、色々な文化が混在する国だ。街が違うだけで全然違う雰囲気の場所が広がっているため、飽きない国だなと感じ、3週間じゃ物足りない！とまで思うことができた。

また、今回の海外研修で特に満足しているのが、プログラム中に田舎から都会まで様々な場所に行く機会があり、それぞれでイギリスの文化に触れられたことだ。土曜日はツアーとしてロンドンやオックスフォードに連れて行ってもらえたり、日曜日のフリーデーに友人と、イギリス第二の都市バーミンガムに行ったり、都会の様子も授業外で見ることができた。オックスフォードはイメージでいうと日本の京都。古き良き伝統が残されている感じだった。一方、首都のロンドンは日本でいう東京の様で、現代の文化と伝統が入り乱れているように見えた。また、バーミンガムは昔、産業革命で栄えていたという歴史があるが、街の至る所でスプレーの落書きが見られ、中には芸術的なものもあり、独特の雰囲気を感じることもできた。

それぞれの街が違う雰囲気を持っていることが感じ取れ、イギリスの面白さを感じることもできた。これから行く人には是非、色々な場所に足を運んでみてほしい。

イギリス人の人柄

さらに、イギリスは見知らぬ人にも気遣いができる人が多い国だったと感じている。例えば、狭い通路を通るとき、日本人なら通る側の人が無言で少しづつかりながら行く場面でも、イギリスの人は必ず、どんな時もどんな人でも、はっきりした声で一声かけてくれた。これは日本では見られない気遣いであった。また、道で見ず知らずの人とすれ違う際に目が合った時、日本人なら知らん顔して目をそらす人が多いであろうところを、現地ではどんな人でも微笑んで“Hello.”と自然に声をかけてくれた。これらは日常の些細な一瞬ではあるが、日本との違いとして大きく実感した所だった。ヨーロッパ人は冷たい人が多いと聞いたこともあったが、実際に行くことで、その先入観も覆され、思い込みであったと実感した。



レスター大学・・・イングランド中部、レスター

シティにある国立大学。1921年に設立された。イギリスの大手一般新聞であるガーディアン紙に2014年にイギリス全土で13位の大学と認定された。National Student Surveyにおける学生満足度は例年国内屈指の高さを記録している。



ビジネス研修の様子

チャッツワースハウス

ダービーシャー州の町ベークウェル近郊にあるデボンシャー公爵の「マナーハウス」で、17世紀に建てられた。中にはたくさんの絵画や彫刻があり、とても全部見切れる量ではなかった。また、ダイニングルームにはシャンデリアや高価そうな燭台が並んでおり、思わず見とれてしまった。これが家なのかと驚きが隠せなかった。ここでは、集合文化財を活用する経営について学んだ。

豊田通商(UK)

実際に海外で働いている日本人の方と話をすることがあった。そのことは英語を学ぶ私たちにとって、非常に大きな刺激になった。タイヤの工場を見学できたのも、車が家庭に届くまでにこんなにも精密な作業が行われているのかと知ることができて良かった。

イーストミッドランズ空港

現地で働くスタッフの方から、空港の説明を受け、空港内を見学させてもらった。説明してくれたのが現地の方だったので、訛りが強く聞き取りが難しかったが、それも含めて良い経験となった。また、特別に飛行場管制官のシミュレーターの体験をすることができ、英語での指示を実際に体験できる機会もあった。他ではあまりできない貴重な機会であった。



英語の授業

授業内容

2つのクラスに分かれての授業であったが、両クラスとも大体同じような内容を勉強した。Daily English と Business English という2つの授業があった。前者では主に日常で使える表現を学んだり、その学んだ表現を使って会話をしたりと、楽しみながら英語力を養成していくという感じでとても面白かった。後者ではビジネスイングリッシュを主に勉強し、ビジネスの場で実際に必要となるであろう英語力を身に着けるという授業であった。例えば、グループ活動で実際に校外へ出て地元の人にアンケート調査をしたり、その結果を踏まえてマーケティングに関するプレゼンテーションを行ったりした。ハイレベルな内容であったが、英語力が身についたと感ぜられる授業であった。外部から講師の方が来て、英語での講演を聞く機会もあった。

ポスタープレゼンテーション

レスター大学での授業の総まとめとして「ポスタープレゼンテーション」を行った。テーマは「New Innovative Product」で、各班で画期的だと思う製品を考案し、実際に大学周辺でインタビューやアンケート調査を行い、その結果を踏まえて製品のプレゼンテーションを行った。レスターでの3週間で培った英語力で、どの班も素晴らしいプレゼンテーションを披露することができた。





7/17, Skittles

美しい草原が一望できるパブで、イギリス伝統の **Skittles** というゲームをして楽しんだ。Skittles とは、ボウリングに似たスポーツで、ラグビーボールのような形をした木製のボールを転がしてピンを倒し、合計得点を競うというもの。チームに分かれて、各々3回ボールを転がして得点を競った。まっすぐ転がすのが難しく、全然倒れなかった(笑)!でも、チーム関係なくみんなで盛り上がるのができてすごく楽しかった。

Skittles の後は、みんなで**イギリスの伝統料理**を食べた。マッシュポテトと大きなウインナーの「バンガーマッシュ」という料理で、とても美味しかった。

7/20, Oxford Tour Trip

バスで Oxford まで送迎してくれて夕方まで観光。現地の方が引率してくれて、グループ単位で自由に観光をした。やはり多くの学生が訪れたのは、映画「ハリーポッター」の Hogworts 魔法学校食堂のモデルとなった「オックスフォード大学」の食堂。他にも「不思議の国のアリス」の舞台なので、その専門店があったり、大学のグッズが至る所で売っていたりと、活気のある街だった。街の中に大聖堂や教会が点在していたり、どこからか鐘の音が聞こえてきたりと、ヨーロッパらしい街並みを楽しむことができた!



研修日誌

| | | | | | | |
|-------------------|--------------------------|--------|--------------------|--------|----------------------------|------------------|
| 7/14 日 Arrival | 7/15 月 Welcome Dinner | 7/16 火 | 7/17 水 Skittles | 7/18 木 | 7/19 金 Chatsworth House | 7/20 土 Oxford |
|-------------------|--------------------------|--------|--------------------|--------|----------------------------|------------------|



7/15, Welcome Party

レスターに到着して初めてのイベント。同じ期間中に留学に来ていた中国の学生たちと一緒に、**パブでディナー**を食べた。最初はお互いに緊張して(?)話すことができなかったが、一緒にディナーを食べるうちにみんな打ち解けてフレンドリーになっていった。中国の学生たちの多くはフレンドリーで、気さくに話しかけてくれて、会話が弾んだ。「日本食ってどんな感じなの?」とか「日本のおすすめの場所はどこの?」といった感じに、日本に大変興味を持ってくれて、とても嬉しかった。到着早々、とても楽しい時間を過ごすことができた。



7/21 日

Free Day

7/22 月

Pub Quiz

7/23 火

Business Seminar

7/24 水

Toyota Tsusho UK

7/25 木

East Midlands Airport

7/26 金

7/27 土

London



7/21, Free Day

プログラム2回の日曜日はFree dayとなっていて、各自が思い思いに過ごせる貴重な休みだった。多くの学生は遠出をしていて、私も友達とアプリで電車のチケットを取って **Birmingham** まで**ショッピング**をしに行った。だいたい片道1時間くらい。Birmingham 駅がショッピングモールと併設されていてLeicesterよりモードな街だった。有名ブランドが数多く揃っていて、一通り見るだけでも楽しめた。

Birmingham はカレー（それも本場のインドカレー）が有名なので、少し駅から離れるが美味しいカレーを求めて散策するのもオススメ！



7/28, Free Day

2度目のFree day は翌週が Poster Presentation 本番ということもあり、寮の Opal Court で勉強する人もいたものの、私はロンドンへと繰り出した。友達と例の **trainline** アプリを使ってバスに3時間ほど揺られたのち、2日連続のロンドンを楽しんだ。1日目に行けなかった場所や、買い残した物を制覇して大満足。往復のバスチケットを取ったため、帰りは時間指定、でも、なんと乗り遅れる！という痛恨のミス。門限(22時)に遅れるわけにもいれないから、電車で帰ってきた。痛い出費だったが、今となっては良い思い出だ(^_^)

8/1, Farewell Dinner

Leicester 大学からバスで20分ほど離れた Bradgate Park という広い公園の近くにある The Old House というお店で**歓送会**を行った。お店ではイギリスの伝統料理のパイが出てきた。各自お世話になった先生たち、引率してくれた ELTU のボランティアの学生、たまたまプログラム期間が一緒になり、何かと顔をあわせる機会が多かった中国の瑞海大学の学生と話して、別れを惜しんだ。

そろそろお開きかというところで、先生方にお礼の色紙とプレゼントを渡した。思った以上に喜んでもらえて、感極まって全員で号泣。この3週間という短い期間にも、色んな思いをしながら積み上げてきた思い出があったのだ、と実感した。



7/28 日

Free Day

7/29 月

7/30 火

7/31 水

8/1 木

Farewell Dinner

8/2 金

Bradgate Park

8/3 土

Departure



レスター市内は大型ショッピングセンターがあるなどお店が充実している。ぜひ散策を！